都城の石蔵と石垣。

―三十三万年前の火山からつながる物語―

石を知ることは、大地を知ること。
大地を知ることは、このまちの営みを知ること。

都城のまちなかに今も残る石蔵や石垣。そこに使われている石の多くは、約33万年前の加久藤カルデラの噴火によって生まれた「溶結凝灰岩」です。火山が生み出した石は、人々の手によって蔵や石垣へと姿を変え、暮らしを支え、まちの風景をつくってきました。
石蔵や石垣を通して、火山がもたらした大地の恵みを感じ、地球という星のかけがえのない物語をたどってみませんか。

パネル展示『地球に触れて、地球で遊ぼう! 霧島ジオパーク』
11/24(火)～12/6(日)

短編ドキュメンタリー『たゆたうたう』上映 (16分)
11/28(土)・12/5日(土)・12/6(日) 14:00～16:00

霧島ジオパーク再認定 現地調査
11月26日(木) 10:00～11:05

11/24 火 ～ 12/6 日

- 会場：都城市立図書館 ギャラリーA
- お問い合わせ：都城市立図書館
  電話 0986-22-0239
- 共催：霧島ジオパーク、都城市立図書館
  - 協力：都城市地域プロジェクトマネージャー、合同会社YOYE

